

令和8年
7月号地域おこし
協力隊新聞教育委員会
(文化・スポーツ)
中村 友 彌

阿智村の皆様、初めまして。6月から文化・スポーツの地域おこし協力隊としてチャレンジゆうAchiで活動しています。中村友彌（なかむらともみ）と申します。

出身は愛知県名古屋市中村区です。高校まで名古屋で過ごし、大学で京都の福知山に下宿していました。大学では、北海道で地域おこし協力隊のインターンシップに参加しました。そこで、協力隊として活躍する方々のお話を伺ったことから、自分も協力隊として地域のために活動したいと思うようになりました。また、大学で地元を離れたことにより視野が広がり、にぎやかな都市部よりも自然に囲まれた環境のほうが好きだと気づきました。

私自身、これまで阿智村はもちろん、長野県内を訪れる機会もほとん

どありませんでした。阿智村に飛び込んで来て1か月、自然が五感で味わえ、人のあたたかさを感じられる阿智村で活動できることにワクワクしています。先日、カーテンの間から差し込む月の明かりがこんなに明るいかと感動しました。阿智村に來たからこそできる経験をこれからさらに増やしていきたいです。

私自身、約20年間書道を習い、10年ほどソフトテニスをしていました。自分がこれまで支えられてきた文化・スポーツを通して阿智村の皆様と交流し、心豊かな時間を共有していけたらと思っています。また、人と同じことをするよりも、自分なりの視点で新たなことに挑戦することの魅力を感じてきました。ゆくゆくは皆様からの要望もお聞きしながらチャレンジゆうAchiで『自分らしい新たなこと』に挑戦していきたいです。

最後に、文化・スポーツを通して皆様の非日常を作り出す空間のお手伝いができればと思っています。まだまだ人生経験も少なく経歴もありませんが、自分なりに活動していきます。皆様と交流できることを楽しみにしています。よろしくお願いいたします。

建設農林課
小田 智

阿智村の皆様、こんにちは。

紙面で数回にわたり、ご報告してきました「地域発元気づくり支援金」事業（ペットフードの鹿肉ジャーキー事業）は、商品の開発が出来たことで目的を達し、本年3月末で事業完了となりました。無事に事業を完了することができたことで、協力隊の責務を果たせたと安堵しております。いろいろな方のご助力に感謝申し上げます。

さて、開発した商品のペット用鹿肉ジャーキーは、阿智屋神観光局の協力で、6月1日より販売が開始しました。商品名は「阿智ジビエ犬用鹿肉ジャーキー」です。パッケージデザインは、観光局の発案による三種類のデザインから、写真の一つを選びました。この商品の価値を高めてくださる素晴らしいデザインで、ロゴマークは、村の象徴である満天の星と、連なる山々、そして力強く立つ鹿の姿をモチーフに構成さ

れていて、人の手を過度に加えず、阿智の自然が育んだ命を、そのまま「食」として届ける姿勢を象徴しているとのこと（観光局HPの商品説明より）。

阿智の山々を活発に動きまわっていた鹿肉は、筋繊維が細く、束がしっかりしています。「ハバキ」と呼ばれる部位（外モモとふくらはぎの間）はとくに筋がしっかりとっているの

で、中心にある極太の筋を少し加工してジャーキーにすると、小型犬では簡単に噛み切ることができないくらい固いジャーキーになります。テスターさんから、このジャーキーを市販の犬用ガムのように活用して、ワンちゃんはとても気に入ってくれているとの反応をお知らせくださいました。





阿智村産業振興公社
松浦 未洋

早くも暑さが増してきて、今年の夏も暑くなるとのこと。

昨年私は何度か熱中症の症状にみまわれてしまいましたが、今年も何とか頑張りたいと思います。

皆様も今年も万全の暑さ対策をとって、熱中症には十分お気を付けください。

さて、今の活動の内容につきましてはリンゴや梨の管理に並行して、夏秋キュウリの栽培に取り組んでいます。

果樹の管理では、摘果や新梢管理、キュウリ栽培は誘引や葉の整理、収穫をおこなっています。

協力隊終了後は果樹と野菜の併用で生計を立てたいと考えており、残りの期間で、圃場や作付け収穫等の作業の分散を考えて取り組む野菜の品目を検討していきたいと思っています。

候補の一つとしてキュウリを考えていますが、今年は昨年と品種を変

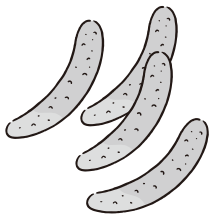
えて取り組むこととしており、今後の暑さや病害虫の状況なども見ながら検討を進めたいと思います。

☆先日報道で2025年の出生数が67万人と、国の想定を15年ほど上回るペースで少子化が進行しているとか。

人口減少がさらに加速する社会を迎えるにあたり、経済の高度成長期に生まれ、バブルとその後の失われた30年を経験した私たちの世代が一番、価値観や行動を変えていかないとけないとしみじみ思います。

地域の方と話している中で、昭和以前にあった地域のつながり、住民同士の協力というものを取り戻し、次の世代に大切に伝える必要があるのではとおっしゃっていたことがとても心に響きました。

私もこの日本を、風土を少しでもいい形で次世代に引き継いでいけたらと思っています。



まつり・イベント
安部 涼平

つい先日まで花桃が咲き誇っていたイメージですが、早いものでもう夏の足音が聞こえてくる季節になりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

この記事が出るころにはもう阿智の夏まつりもすぐそこまで来ている頃でしょう。

協力隊として着任させて頂いて早3カ月。予算の使いどころの見返しから始まり、新規企画の立案、各関係者との打合せなど、この数か月で経験したことのない業務が次々に流れてきて必死に食らいついている毎日です。幸いにして関係各所の皆様のおかげで日々勉強をさせて頂きながら、より良い運営にできないか楽しみつつ考えられております。

今年は特に村制70周年もあって、新規企画の立案で観光局や伝統芸能をされている方などこの仕事でないとなかなか交わらない人々と関わらせていただく機会が増え、自分自身

の知見が広がっていくのを日々感じております。

これから移住定住関係のイベントにも参画し外部誘致を進めることにも協力させていただくので、知見を広げ阿智村の魅力を自分自身の言葉で語れるようになれたらいいなと思いつつ、勉強をさせて頂ける環境の有難さをかみしめながらこれから活動が続けていきます。

3年間という長いようで短い任期の中で、無形商材を扱う以上成果が見えにくい私が退任するときに自信をもって「これができた!」といえるようなことができることが協力隊としてのゴールだと思っています。そのためにも、新たな夏まつりの伝統を創造できればと思いつつ地道に邁進してまいります。





協働活動推進課
(全村博物館構想)
大岩 音寧

協力隊に着任して数か月ですが、これまであらゆる活動に従事してき

ました。その中でも印象的だったのは、地元農家さんと共同で企画した通年の米づくり体験です。日本の伝統的な米づくりを学んでもらうこの取り組みには、地元の方々をはじめ県外の方にも参加していただいております。特に田植えでは、泥だらけになりながら楽しそうに作業をする姿や、虫取り・川遊びに夢中になる子どもたちに心惹かれました。初対面ながら深い交流を図る参加者の様子を見て、交流が地域にもたらす重要性を感じました。

最近では地元住民・観光客・関係人口の皆様との関わりが増え、またSNS発信、『全村博だより』の執筆も担当するようになりました。その中で、全村博について説明する機会が増えてきました。「全村博の意義とは何か」「どうすれば分かりやすく伝わるか」を熟考する日々です。一

言で説明するのは難しいですが、全村博は住民のニーズに応えた地域づくりをプロデュースする役割を果たしていると考えています。私も皆様との関わりの中で、実践できることがあれば積極的に挑戦していきたいです。

また有難いことに業務以外でも地域活動へのお誘いが増え、浪合念流太鼓や園原の木賊獅子に関わり始めました。地域の民俗芸能に携わることが夢だったので、非常に貴重な経験をさせていただいています。また浪合の米づくりイベントや集落の作業にも参加させていただきました。そこでの出会いから交流が深まり、次の活動へとステップを踏んでいく・・・そんなプロセスに日々やりがいを感じています。ぜひこれからも様々な活動にお誘いください。喜んで駆けつけます。

最後に、私の活動内容は多岐にわたりますが、全てが全村博や地域づくりについて学ぶチャンスだと捉えています。これからも感謝の気持ちをお忘れず、あらゆる業務に全力で取り組んで参ります。



阿智村産業振興公社
小川 寛史

例年より季節を先取りしているような今年、うだるような暑さの中、皆様、いかがお過ごしでしょうか？

普段はトマト圃場の管理を行っているのですが、徐々に作業には慣れました。が、遮光をしないとハウ

ス内は40℃近くまであがります。ここまで暑いとトマトもさすがにしておれてくるので、温度、湿度、光度をみながら遮光、灌水等で調整しています。これからの季節はさらに暑くなり、トマトの花も落ちてしまうようなので、何か手を打たねばと思うています。また、ナフサ不足により液肥が購入できず、1週間程度肥料なしで栽培するようなこともありました。そんな中でも枯れずに育っており、植物の生命力を感じることができました。

自主研修圃場ではいろいろな野菜を育てています。これは発芽に時間がかかるもの、これはすぐに成長していくものと、作物それぞれ個性豊

かで命を育てている実感がわいていきます。中には発芽前に水をやりすぎて、種が腐ってしまったものもありました。手を抜く勇氣、水をやらない勇氣も必要だそう。難しいです。最近では夏野菜が取れ始めており、毎日なんの料理を作ろうか頭を悩ませる幸せな時間を過ごしています。また、ありがたいことに色々な地域のイベントにも参加させていただいています。

5月下旬には浪合の小学生と五平餅作りを行いました。その際、近隣に長く住んでいる方から、昔浪合が宿場町であったころ、お客さんをもてなす料理としてえごまの五平餅を出していたことを聞きました。

私の地元で五平餅と言えば、ゴマと赤みそで味をつけるのですが、浪合ではすりつぶしたえごまと醤油を使うそうです。味ももちろん、えごまの香ばしさが際立ち美味しかったです。この出会いに感謝し、えごまを育ててみることにしました。植え付け後2週間でもぽつぽつとしか生えてこず少し心配ですが、地域の方にいただいた本を頼りに、何とか収穫までたどり着きたいです。



ぶどうのお花

毎日暑い日々が続いていますが、みなさんいかがお過ごしでしょうか。さて、私は4月から研修を始め、農機具の基本的な使用方法、圃場においてトマト、きゅうり、パプリカ、ぶどうなどの栽培方法について学んでいます。毎日お野菜を観察・管理することによってただ食べるだけではなくお花が咲いた・実がついたなどちょっとした変化・成長について知ることができ、今まで知らなかったことを知るとても貴重な経験をさせていただいています。



阿智村産業振興公社
山本 真央

その一方で、機械音痴な私にとってはトラクターの操作が難しく、苦戦しています。今までは道路や畑で見て、「あ、トラクターだ」という感覚でしたが、いざ自分が乗っていると高さがあるに加えて操作する箇所が幾つもあったりそれをどのタイミングで使用するか、頭が混乱してしまいます。

5月には人生で初めて田植えを経験しました。小学生の頃にバケツ稲をやったことはありましたが、実際に畑に入ってみると足を取られそうになりました。今回の田植え体験では小さな子どもたちも参加しており虫を見つけては「○○○だ」と楽しそうに過ごす姿が印象に残っています。現代は田植えに限らず、機械で何でもできてしまう時代で便利ですが、昔のやり方を再現することも大切なことだなと感じました。

私自身、お米を食べることが大好きなので、今年もお米を食べることはもちろん収穫できるまでの過程が楽しみです。

国民年金 免除・納付猶予申請について

国民年金保険料の納付が経済的に困難な場合、保険料の納付が「免除」または「猶予」される制度があります。（学生の方は学生納付特例制度があります。）

国民年金の免除・納付猶予の承認期間は、「7月から翌年6月まで」の1年間です。

①免除（全額・一部）申請の対象となる方

- 退職（失業等）により納付が困難な方
- 申請者本人、配偶者、世帯主の前年所得が一定金額以下の方

②納付猶予申請の対象となる方

- 50歳未満で、申請者本人、配偶者の前年所得が一定金額以下の方

令和7年度（令和7年7月から令和8年6月）に国民年金保険料の免除等の承認を受けていた方も、引き続き令和8年度（令和8年7月から令和9年6月）も免除等の承認を受けることを希望する場合は、継続審査対象者を除き、新たに申請が必要です。

マイナポータルでも年金のお手続きができますので、ご活用ください。

お問い合わせは

- ねんきん加入者ダイヤル（国民年金加入者向け） **0570-003-004** 〈ナビダイヤル〉
 - 050からはじまる電話などナビダイヤルをご利用いただけない電話からは **03-6630-2525**
- 飯田年金事務所 **0265-22-3641** 〈ナビダイヤル〉 **0570-05-4890** 〈予約受付専用電話〉